

オホーツク海・日本海 4 月 魚探情報

—試験調査船「北洋丸」による海洋観測および魚群分布調査の結果—



道総研

2025 年 4 月 25 日

北海道立総合研究機構 稚内水産試験場

(担当：調査研究部 呂 0162-32-7166)

- ◎オホーツク海沿岸域の底層水温は 5℃台の水温帯が優占
- ◎日本海沿岸域の底層水温は 6～7℃台の水温帯が優占
- ◎オホーツク海沿岸域における魚群反応量は前年より多く、枝幸～紋別沖の水深 100～200mの海域にスケトウダラとみられる濃い魚群反応が分布
- ◎日本海では武蔵堆周辺や小樽沖にスケトウダラとみられる濃い魚群反応が分布

1 調査概要

2025 年 4 月 10～19 日に稚内～積丹沖の日本海，稚内～網走沖のオホーツク海において，試験調査船北洋丸により，海洋観測および計量魚探を用いた魚群分布調査を実施しました。

2 水温観測の結果

調査海域における底層水温（海底上 5～10m，水深 400m以深の海域は深度 400mの水温）の分布を図 1 に示します。今年 4 月の底層水温は，オホーツク海の沿岸域では宗谷暖流の流入により 5℃台，沖合域では 3～4℃台の海域が広がっていました。日本海の沿岸海域は 6～7℃台の海域が広がっており，両海域とも前年（2024 年）より沿岸域の底水温は高い傾向がありました。

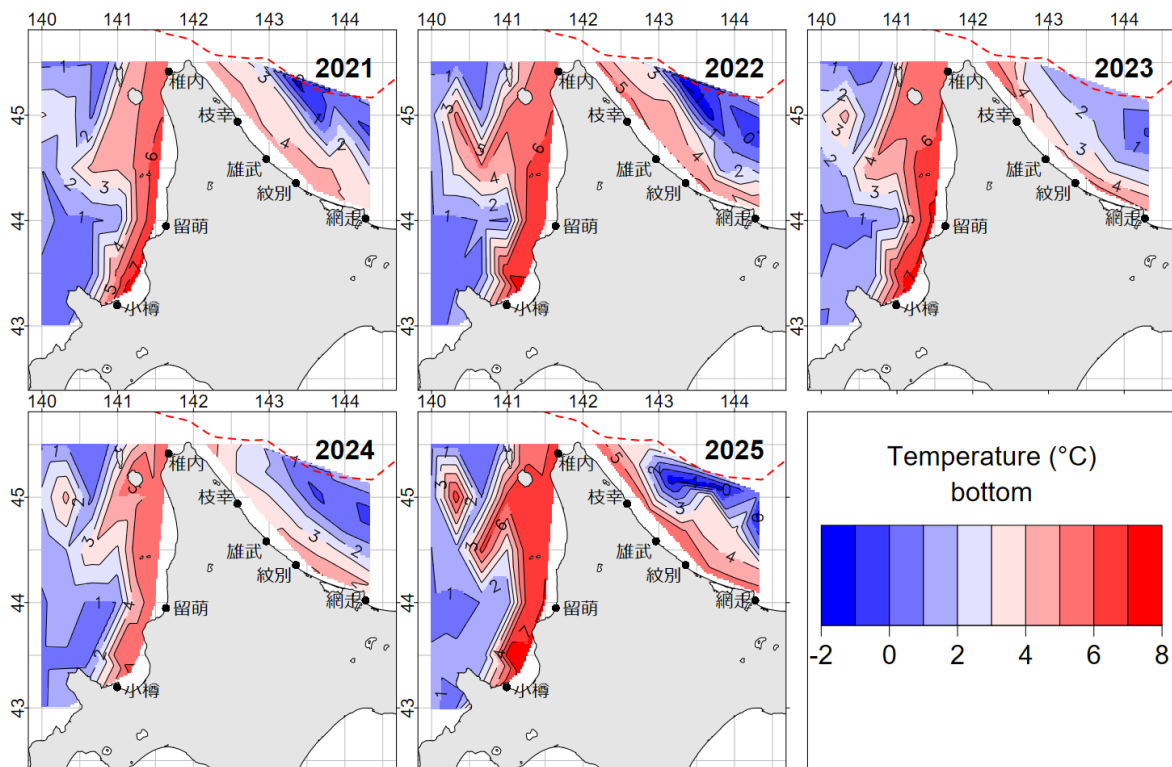


図 1. 北海道北部沿岸における底層水温（℃）の分布. 2021～2025 年 4 月.

3 魚群分布調査の結果（オホーツク海）

計量魚探で得られた1海里あたり魚群反応量の分布を図2に示します。今年の調査では、枝幸～紋別沖において魚探反応量は前年より多く、100～200mを中心にスケトウダラとみられる魚群反応が確認されました。北見大和堆の北側海域でも、スケトウダラとみられる魚群反応が確認されましたが、反応量は前年より減少しました（図3）。

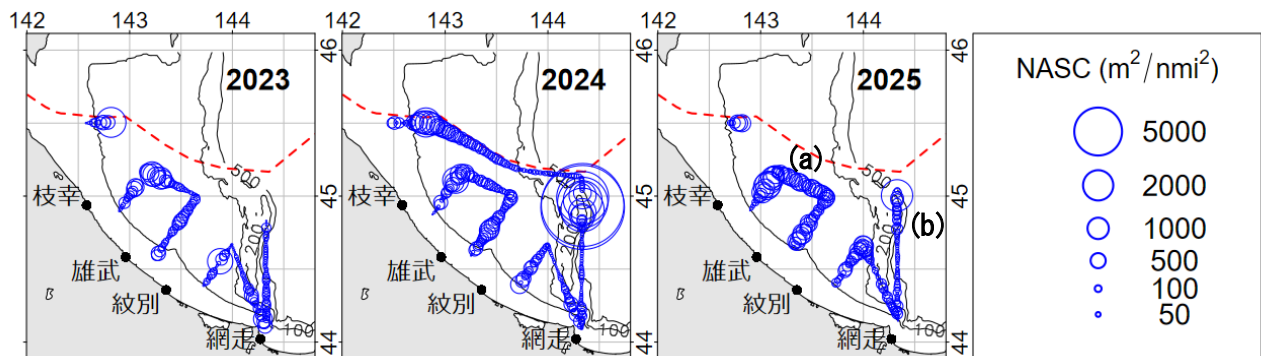


図2. 北海道沿岸オホーツク海における魚群反応量 $NASC$ (m^2/nmi^2) の分布. 2023～2025年4月.

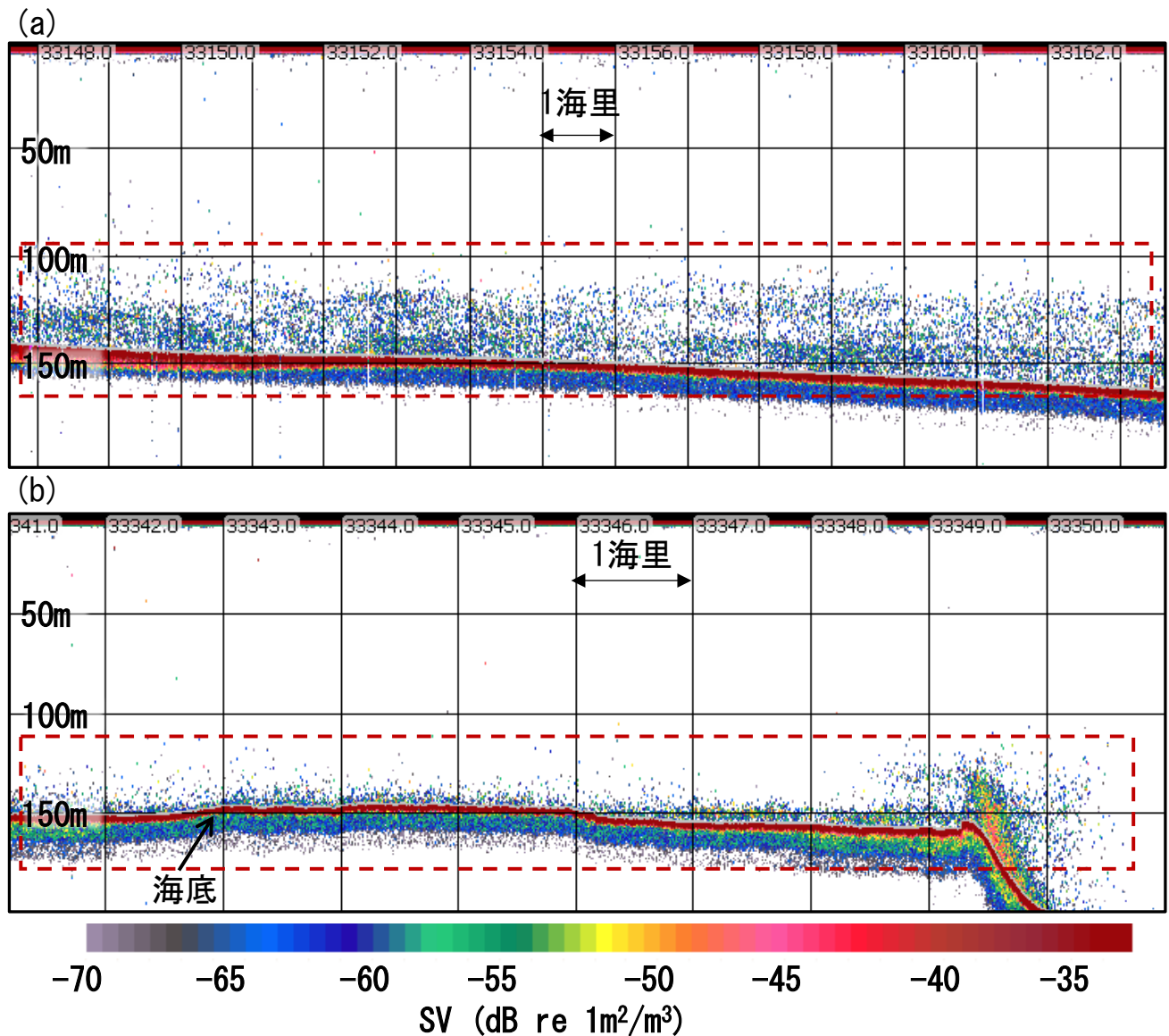


図3. 枝幸～雄武沖（a, 2025年4月10日21:30頃）および北見大和堆の北側海域（b, 2025年4月11日19:50頃）で観察された魚探反応（赤破線枠内：スケトウダラ）。

4 魚群分布調査の結果（日本海）

計量魚探で得られた1海里あたり魚群反応量の分布を図4に示します。昨年調査と比較すると、武蔵堆北部や天売・焼尻沖の魚探反応量は増加し、水深130～200mの海底付近にスケトウダラとみられる魚群反応が確認されました。また、小樽沖でも、水深200m以深の深度200～450mにスケトウダラとみられる魚群反応が確認され、前年より反応量は増加した一方、魚探反応の分布水深は前年より約100m深いことが確認されました（図5）。

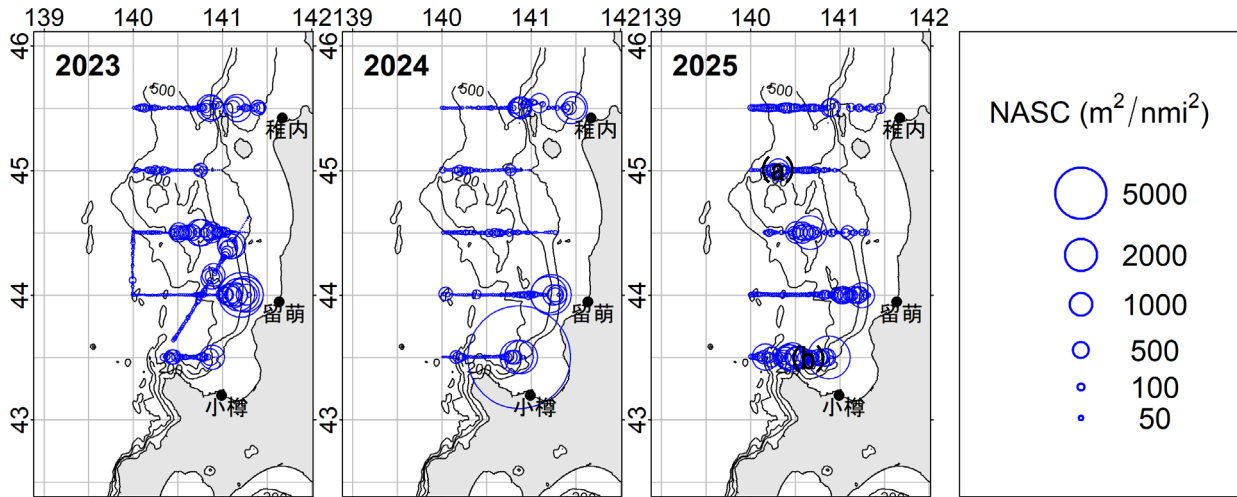


図4. 北海道西部日本海における魚群反応量 $\text{NASC} (\text{m}^2/\text{nmi}^2)$ の分布. 2023～2025 年 4 月.

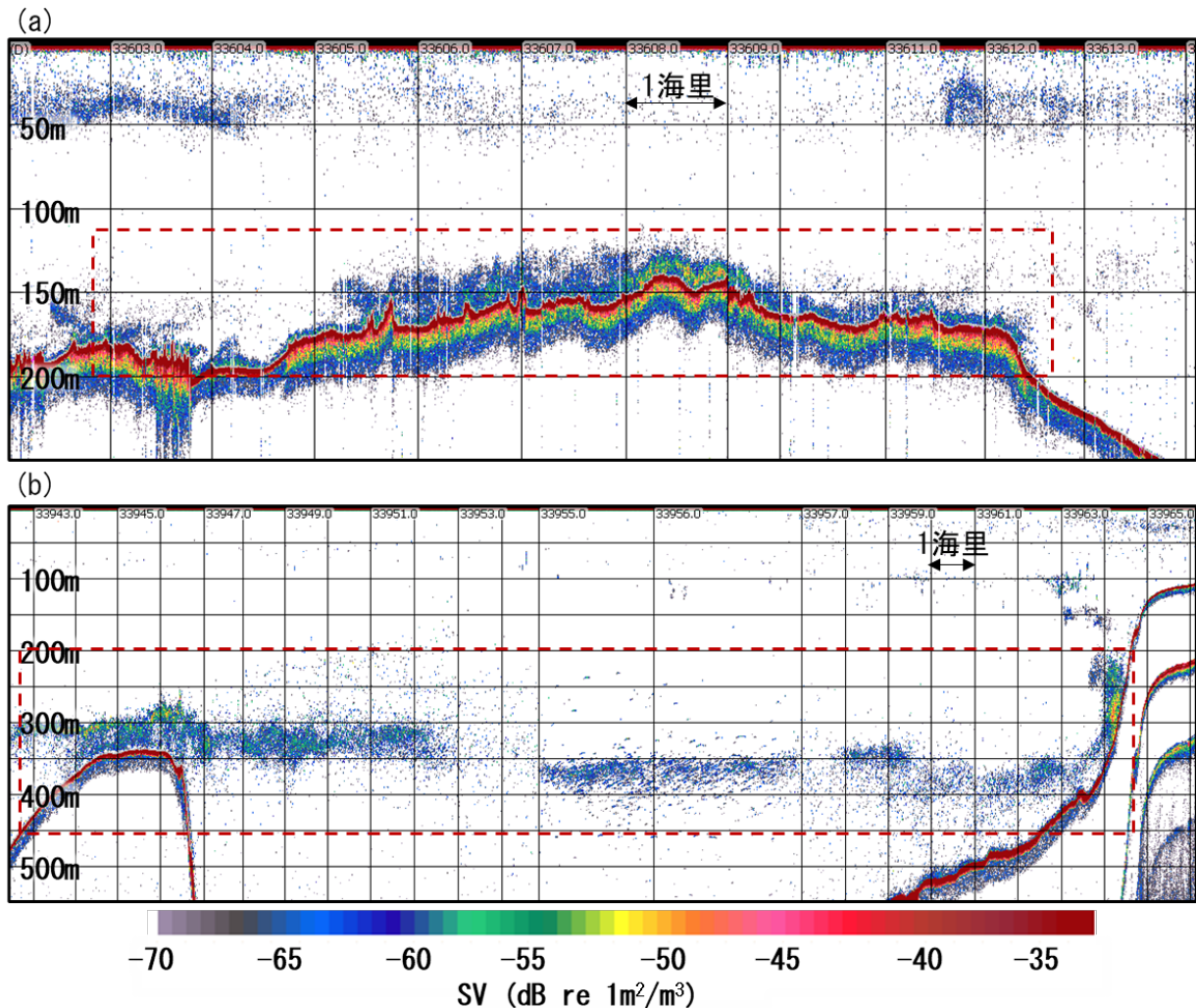


図5. 武蔵堆北部 (a, 2025 年 4 月 13 日 1:00 頃) および小樽沖 (b, 2025 年 4 月 15 日 16:00 頃) で観察された魚探反応（赤破線枠内：スケトウダラ）。